

## 2016世界道路協会(PIARC)報告

平成28年9月21～22日、南アフリカ共和国の立法府首都ケープタウンにて「世界道路協会(PIARC)」の2016年総会が開催された。来年は4年に一度の役員改選年にあたり、今総会ではその選挙が予定され、PIARC会員である当協会の代表として参加した。



### 1. 総会

総会はケープタウン駅前のCape Sun Hotelにて開催された。21日は、前回総会(ソウル)の紹介と議事録承認、南アフリカ国内委員会の報告、財務委員会(2015年決算の承認および2016年予算の執行報告、2017年予算の承認)が行われた。22日の午前には「The Use of Technology and Role Research in the Advancement of Road Safety」と題したConference Discussionがあり、国土交通省道路局安全課の酒井洋一道路交通安全対策室長が日本の取組みについて発表した。午後に入り、前回2015年世界道路会議(ソウル大会)の報告、今後のスケジュールとして2018年国際冬季道路会議(グダンスク大会)並びに2019年世界道路会議(アブダビ大会)の紹介があった。その後、会長立候補者の演説があり、役員改選(会長、実行委員、監査役、名誉会員、副会長)の投票が行われた。

新会長にはClaude van Rooten氏(ベルギー)、新副会長には菊川滋氏(日本:日本道路協会理事・国際委員長、(株)IHI常任顧問、元国土交通省技監)、Cheick Oumar Diallo氏(マリ)、Miguel Angel Salvia氏(アルゼンチン)が選出された。

その後、新会長の就任挨拶があり閉会となった。

1時間後、同ホテル内にて総会ディナーが開催され、プロが奏でるジャズ、ポップスの演奏を聴きながらのフルコースを堪能する。ディナー終盤にはダンスタイムとなり、参加者ほぼ全員が参加しての一大ディスコダンスパーティーで幕を下ろした。

### 2. ケープタウン事情

往きの機中、眼下のアフリカ大陸は一面が砂漠。そろそろ到着かと、斜め前方を見下ろすと大中ビルが密集する都市が出現する。岩肌にも結構な緑が茂っていて、オアシスのよう。ケープタウンは、1652年にオランダ東インド会社の補給基地としてY・F・リーベックが建設したとされるが、果たしてこの砂漠地帯を如何様に開拓していったのか。

市内を見回すと、建設作業員をはじめ、ホテル、レストラン、デパート、タクシー、街中で見かける働く人々は全て有色人種。南アフリカ共和国の民族構成はヨーロッパ系白人以外が9割を占めるらしく、アパルトヘイト時代が継続しているかのような錯覚を覚える。

総会は2日間にわたったが、総会の合間と帰国前日のフリー日に訪れたケープタウン市内、郊外の様子を少々。マンデラ元大統領が収容されていたユネスコ世界文化遺産登録のRobben Islandは時間の制約で断念し、Table Mountain、Signal Hill、Boulders Beach、Cape of Good Hope(喜望峰)と回った。これら各地は全て著名な観光地。紹介はインターネットやガイドブックに譲るとして、訪問中すべからく天気に恵まれ、期待以上の写真が撮れたのでご覧いただきたい。

日本道路協会より発刊されている『道路』(vol.908)に総会内容が詳述されているので参照されたい。

一般社団法人  
プレストレスト・コンクリート建設業協会 会長 **菅野 昇孝**

Table Mountain



Signal Hill



Boulders Beach



Cape of Good Hope(喜望峰)

